

1. 第三者評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2871000671		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ山芦屋		
所在地	芦屋市山芦屋町9-18 (電話) 0797-25-7100		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価結果確定日	平成21年11月10日

【情報提供票より】 (21年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 15 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算	17,4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	378,050 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	420 円
	夕食	525 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (6月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう内科
---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季折々の自然の美しさを実感できる恵まれた環境にホームは在り、建物外観は周辺の閑静な住宅街と調和し安らぎのある佇まいとなっている。落ち着いた雰囲気の中で、採光・空調にも配慮し、ご利用者の豊かで心地よい暮らしが継続されている。「家庭的な雰囲気の中で、安心と尊厳のある生活」を目指し、より具体化されたケア方針を掲げ、職員一人ひとりの資質や意識の更なる向上に取り組んでいる。法人全体での研修体制の充実や職員間でのチームワークを大切にされた職場環境の中で、利用者の視点に立った本人主体の支援が実践できるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価結果はミーティングで検討しあい、より良いケアの提供に活かしている。また、運営推進会議で評価の意義や目的を説明し結果を報告している。グループホーム連絡会への参加により、事業者間での情報交換や相互見学を行い運営面にも活かしていくなど、改善策に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価については、リーダーが個々のユニット毎に職員の意見を集約し、主任が最終確認後まとめ上げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議は二カ月に1回定期的に関かれ、ご利用者家族・地域包括職員・民生委員・ホーム職員の参加がある。ホームの行事予定・家族会の報告・地域包括職員からの報告などを通じて情報共有や意見交換を行っている。認知症の学習会や歌声喫茶などの提案があり参加者間で検討し、具体的な取り組みとして実現に至っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	面会時に気軽に意見や要望を伝えてもらえるよう配慮すると共に、年に1回家族アンケートを実施し、運営面に活かせるよう取り組んでいる。また、運営推進会議や年に2回開催の家族会でも率直な意見が出せるよう働きかけている。苦情や相談は職員間で検討し、対応経過については記録に残し、家族には迅速な返答を心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	近隣の八百屋さん施設内で市場を開いたり、事業所のサロンを提供し歌声喫茶を開催する等、地域住民と利用者との交流の機会がある。また、地域の集いへ参加する事やホーム内での催し(夏まつりや餅つき等)に招待する事を通して、老人会・コミスク・民生委員の方々との繋がりが継続されている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「ご入居者が主人公」「生きがいのある生活」「尊厳を保つ」「地域社会と共に」の理念を掲げている。地域密着型サービスとしての役割を理解し、家族や地域社会の協力のもと、利用者が住み慣れた地域で安心と尊厳のある暮らしが継続できるよう支援している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践に向け、新人研修・現任研修・ミーティングの中で話し合い確認されている。本年度は介護方針として「尊厳を保つケアの具体化」を掲げ、職員間で共有し実現に向けた取り組みがなされている。		
2.地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の八百屋さんが施設内で市場を開いたり、事業所のサロンを提供し、歌声喫茶を開催する等、地域住民と利用者との交流の機会を作っている。また、地域の集いへ参加する事やホーム内での催し（夏まつりや餅つき等）に招待する事を通して、老人会・コミスク・民生委員の方々との繋がりが継続されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果はミーティングで検討しあい、より良いケアの提供に活かしている。また、運営推進会議で評価の意義や目的を説明し結果を報告している。自己評価は、リーダーがユニット毎に評価項目について職員の意見を集約し、主任が最終確認後まとめ上げている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は二カ月に1回定期的に開かれ、ご利用者家族・地域包括職員・民生委員・ホーム職員の参加がある。ホームの行事予定・家族会の報告・地域包括職員からの報告などを通じて情報共有や意見交換を行っている。認知症の学習会や歌声喫茶についての提案があり、参加者間で検討し、具体的な取り組みとして実現に至っている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>芦屋市介護サービス事業者連絡会の理事として市や各事業者と連携を図っている。市が主催する権利擁護フォーラムで実行委員として関わりを持ち、協働関係を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>家族面会の機会が多い為、面会時に利用者の現況を伝え、写真やビデオも見ていただくよう配慮している。また、緊急時等の連絡については、電話やメールで速やかな対応を心掛けている。毎月、担当職員が本人の暮らしぶり・健康状態・行事予定等を、介護レターとして送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に気軽に意見や要望を伝えてもらえるよう配慮すると共に、年に1回家族アンケートを実施し、運営面に活かせるよう取り組んでいる。また、運営推進会議や年に2回開催の家族会でも率直な意見が出せるよう働きかけている。苦情や相談は職員間で検討し、対応経過について記録に残し、家族には迅速な返答を心掛けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>不必要な異動は行わないよう配慮している。日頃よりフロア間での交流があり、職員との馴染みの関係が保たれ、職員交代があった場合も利用者へのダメージを少なくするよう取り組んでいる。また、ホームの現状に配慮しながら、家族には面会時や介護レターなどで異動状況を報告するよう努めている。職員が日頃よりリーダー・主任等に相談しやすいよう職場環境を整え、年に2回のホーム内面談や社長面談の中でも個々の意見を述べる機会を作っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では研修計画にそって、新人研修や現任研修を実施している。職員のキャリアや力量に応じて段階的にステップアップできるような研修体制を整え職員育成に努めている。また、ホーム内で毎月テーマを決め勉強会を実施し、その中で伝達研修等も行なわれている。資格取得に関する研修は、研修費や交通費等の補助があり支援体制が整っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>芦屋市内のグループホーム連絡会が平成20年度に設立され、所長・主任が連絡会に参加し、情報交換や相互見学会が行われている。今後は職員間の交換研修を検討している。また、法人内ではリーダー間の連絡会が年に4回あり、法人内での交流の場となっている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に至るまでに職員は本人の自宅を訪問し、不安を少なくするよう働きかけている。また、併設しているデイサービスや訪問介護を利用しながら徐々に雰囲気馴染んでもらう機会を作っている。入居後も利用者の気持ちの変化に配慮し、職員との関わりを増やしたり、家族の協力を得るなど、本人の気持ちにそった支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの生活歴や個々の力量に配慮しながら、共に過ごす時間の中で職員が教えてもらったり学んだりする姿勢を大切にしている。家事やアクティビティーの場面で、職員は利用者の視点に立った支援を行い、一方的な関わり方にならないよう配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から得られた情報は記録に残し、本人の意向にそった支援ができるよう職員間で情報を共有している。また、日々の利用者との会話で、それぞれの思いが汲みとれるよう努めている。意思の疎通の困難な人については、日頃の表情・行動・家族よりの情報等で思いを確認して		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用しアセスメントを行いニーズを明確にしている。本人・家族との話し合いや職員間でのミーティングをもとに、本人主体の介護計画作成に取り組んでいる。センター方式について職員の誰もが活用できるよう、学ぶ機会を作っている。		センター方式を導入し、職員間での活用法を統一するために検討を重ねているため、今後も、入居時の本人の基本情報からアセスメント、介護計画作成に至るまでの流れについて、更に確認・把握しやすいよう様式の整備を期待する。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングの中で、一人ひとりの利用者の介護計画に沿ったケアについて振り返り、大きな変化がないか確認している。利用者の状態変化があった場合は、その都度計画の変更に取り組み、変化がない場合も6ヶ月に1回程度の定期的な見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調管理は、提携医が24時間体制にて健康面の相談を受け、状況に応じては医療処置も検討しながら対処している。通院・入院時の介助や、個別に希望する外出や買い物等の付き添いについては、職員が状況に応じて柔軟に対応している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月1回の往診や、心療内科・外科・歯科の定期的な往診・受診がある他、併設施設の看護師に随時健康面の相談が可能である。また、利用者の希望するかかりつけ医への通院の付き添い等を支援し、受診経過を家族と共有していくよう取り組んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時や利用者の状態変化に応じて説明や話し合いが行われ、本人や家族の意向を確認し、関係者との方向性の統一を図っている。近々、医療連携体制加算の導入予定であり、職員も重度化等への対応について、知識や理解を深めるための研修を受講している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳ある生活を支援していく事を理念に掲げ、利用者の生活歴や性格等に配慮しながら、個々を尊重した対応や言葉かけを心掛けている。また、職員の入職時に守秘義務等について誓約書を交わし、定期的実施している法人内研修でプライバシー保護について認識を深め、職員の意識向上を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活歴やペースを把握し、それぞれの意向に沿った個別的な支援を行っている。起床や就寝の時間・食事時間等は本人の習慣を大切に柔軟に対応し、アクティビティーへの参加は関心や興味に配慮しながら勧めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りは厨房に委託しているが、配膳や下膳・テーブル拭き等は利用者とともにしている。気の合う人同士が会話を楽しみながら食事する場面も見られ、個々のペースにあった食事支援がなされている。利用者の希望のメニューに変更したり、外食やおやつ作りの機会もあり、食環境に変化を取り入れている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の利用者の習慣や好みを把握し、それぞれの希望する日や時間帯での入浴や、同性の介助による入浴等、本人の希望に沿った支援を行っている。入浴チェック票に記入し、拒否傾向のある人には、職員間で検討し声かけ等の工夫にて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意向や心身の状況に応じて、食事の後片付けや洗濯物たたみ・花の水やり等の役割や、個別の楽しみとしてのアクティビティの機会を作って、個々に合った支援がなされている。また、全体でのアクティビティは月毎の計画を、介護レターやホームページにて家族等にも案内している。音楽療法士による音楽療法や健康運動指導士による体操教室は利用者の心身の活性化をもたらしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事の中で四季の変化が実感できるような外出を取り入れている。また、日常の買い物や散歩などの気軽な外出や、個別の希望に沿った外出の工夫もある。利用者の身体状況に応じて、中庭を散歩したりバルコニーで日光浴する等、暮らしの中で外気に触れ、適度なストレス発散になるような取り組みも行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は、ホームの立地条件や併設施設との関係もあり安全面に配慮され、中からは開かない状況で、家族への説明や了解は得られている。2階の各ユニット入口やバルコニー・エレベーター等はオープンな状態で、利用者は自由に移動でき、閉塞感や抑圧感を感じられない。		1階の玄関の開錠に関しては、利用者の安全への配慮から難しい面も考えられるが、鍵をかける事の弊害を意識し、今後も利用者の安全面に配慮しながら、鍵をかけないケアの実践に向け、話し合いの機会を継続していく事を期待する。(アドバイス欄に入れてもいいかも・・・と迷っています)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、夜間発生への対応や利用者の参加に配慮した避難訓練を実施している。運営推進会議にて訓練の状況を報告し、実際の避難経路等の見学の機会も作っている。災害発生に備え、非常食の備蓄に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による総カロリーや栄養バランスに配慮された献立に基づき食事提供がなされている。定期的に給食会議が開かれ、その都度要望や気付きを伝えている。利用者の心身の状態に合わせ食形態を工夫し、食欲や体調面に配慮し支援している。食事摂取量・水分摂取量を把握し、パソコン上で日々の管理がなされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり	玄関までのアプローチや各フロアの共用空間はゆったりとした広さが確保され、施設内にはサロンや多目的室等があり、利用者はその日の気分や目的に応じて、各箇所で思い思いに過ごせるよう配慮されている。ホーム周囲には木々や草花が植えられ、建物内には季節の花々や観葉植物・装飾品等の設置があり、四季の変化を感じながら心地よく過ごせる工夫がなされている。		
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
		居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は木製の表札を掲げ、表札の横の飾り棚には利用者の希望する装飾品を置き、一人ひとりの居室としての空間を大切にすると共に、部屋間違いの混乱をさりげなく防いでいる。居室内にはソファや使い慣れた家具の他に利用者の趣味の作品等持ち込み、その人らしさを大事にした環境となっている。		
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている			

 は、重点項目。